

一、神事舞「奉幣之舞」

神事舞「奉幣之舞」

【あらすじ】

梗概

神楽の演目には大きく二つの要素があります。

儀礼的（ぎれいてき）な、あるいは祈祷的（きとうてき）な内容を持つ演目があります。それから、演劇的な娯楽的な内容を持つ演目があります。

神乐的剧目大致含有二个要素。有含有礼仪性的、或者含有祈祷性内容的剧目。还有含有戏剧性、娱乐性内容的剧目。

相模地方（神奈川県）の神楽には、御神前之舞（ごしんぜんのみ）という祈祷的、呪術的、神事的、儀礼的な演目が伝わっています。

流传在相模地区（神奈川県）的神乐，被称为“御神前之舞”、是含有祈祷性、巫术性、祭神性及礼仪性的剧目。

以下の七座（七演目）が伝わっています。奉幣之舞、榊之舞、劍之舞、末広之舞、弓之舞、竿之舞、相生之舞の七座（七つの演目）が伝わっています。

流传着以下七座（七个剧目）：奉幣之舞、神木之舞、剑之舞、折扇之舞、弓之舞、竿之舞、相生之舞。

御神前之舞は、神社の祭礼儀礼（神事儀礼）の中で演じられます。したがって、厳粛な雰囲気の中かで、演じられます。静かに演じられます。一般の方々が見る前で演じられることはありません。

御神前之舞，在神社的祭礼仪式（神事仪式）上表演，因此、此舞需在严肃的氛围中、安静的演绎。不会在一般大众面前表演此舞。

七座（七演目）ありますが、一度に七座を演ずることはありません。通常は、三座（三演目）が演じられます。必ず、奉幣之舞は演じられます。奉幣之舞は、もともと代表的な舞です。

虽然有七座（七个剧目），但并不会一次同时演出。通常会演出三座（三个剧目）。这其中必会演出奉幣之舞，因为奉幣之舞是最具代表性的舞。

奉幣之舞は天下泰平、国土泰平、地域社会の泰平を祈願する舞です。演者自身が自ら、お祓いをして、穢れを取り除きます。それから四方世界をお祓いして、穢れを取り除き泰平を願います。

奉幣之舞是祈愿天下太平、国土太平、社区太平之舞。表演者会先在神社举行驱灾神事，驱除自身污秽，而后再为四方世界驱灾除秽，祈求泰平。

神楽鈴かぐらすずを持ち、同時に採り物（とりもの）と呼ばれる道具を持って舞います。採り物が弓の場合は、山の幸（つまり、狩猟）を祈願します。採り物が竿の場合は海の幸（つまり、漁獲）を祈願します。加えて、御神前之舞は神楽面（かぐらのおめん）を着けず、素面（あるいは素顔）で舞います。

手持神乐铃，同时舞动手上被称作採物的道具。若手持道具为弓，则表示祈求山珍（即狩猎）。若手持道具为竿，则表示祈求海珍（即鱼获）。而且，御神前之舞不带神乐面具，是以素面（素颜）舞之。